

I 研究の目的

1 教科「人間と社会」の現状と課題

「人間と社会」は、平成28年度に必修教科として設置され、その後、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、令和2年度末に教科書を改訂

【教科書改訂のポイント】

- テーマごとの演習課題に「問い」の設定を加えるとともに、教科書全体を通して自ら課題を設定し、その解決を図る「探究に至るプロセス」に沿って学習
- 現代的な課題を取り入れた章を設置

「チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみよう～」

- ①この章の学習を通して、「〇〇」についてどのように考えますか。
- ②どうして、そのように考えたのですか。
- ③そこから生まれたあなたの疑問を3点挙げてみましょう。
- ④グループになって、更に深めてみたい疑問を選んでみましょう。

- (1) 「チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみよう～」…「問い」を作成するための教材を開発

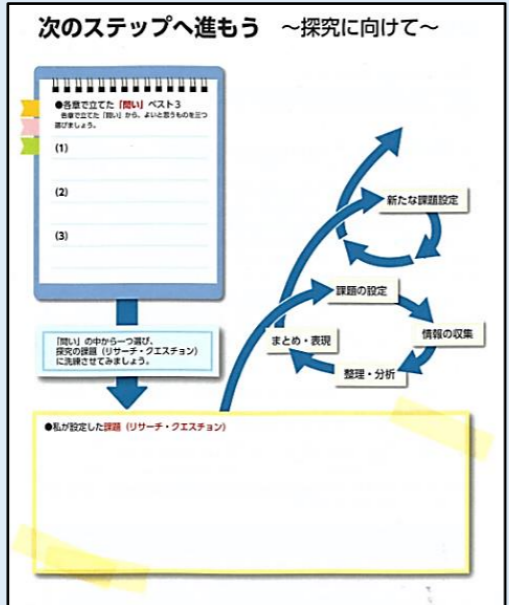
第11章 消費者市民社会

【本文】
「エシカル消費」について考えたり、話し合ったりすることができるよう内容を工夫

【コラム】
「フェアトレード」、「サステナブル」等に関するコラムを設定し、自分の考えをまとめ、議論することにより、自分の価値観を高められるよう内容を工夫

【ケーススタディ】
学校行事におけるTシャツ作成について、どのような商品を選択するかを考えさせ、行動する力を育成できるように内容を工夫

- (3) 現代的な課題を取り入れた章の設置
…生徒の興味・関心を喚起する教材の開発



- (2) 「次のステップへ進もう～探究に向けて～」…生み出した「問い」の中から一つ選び、課題（リサーチ・クエスチョン）の設定につなげるための教材を開発

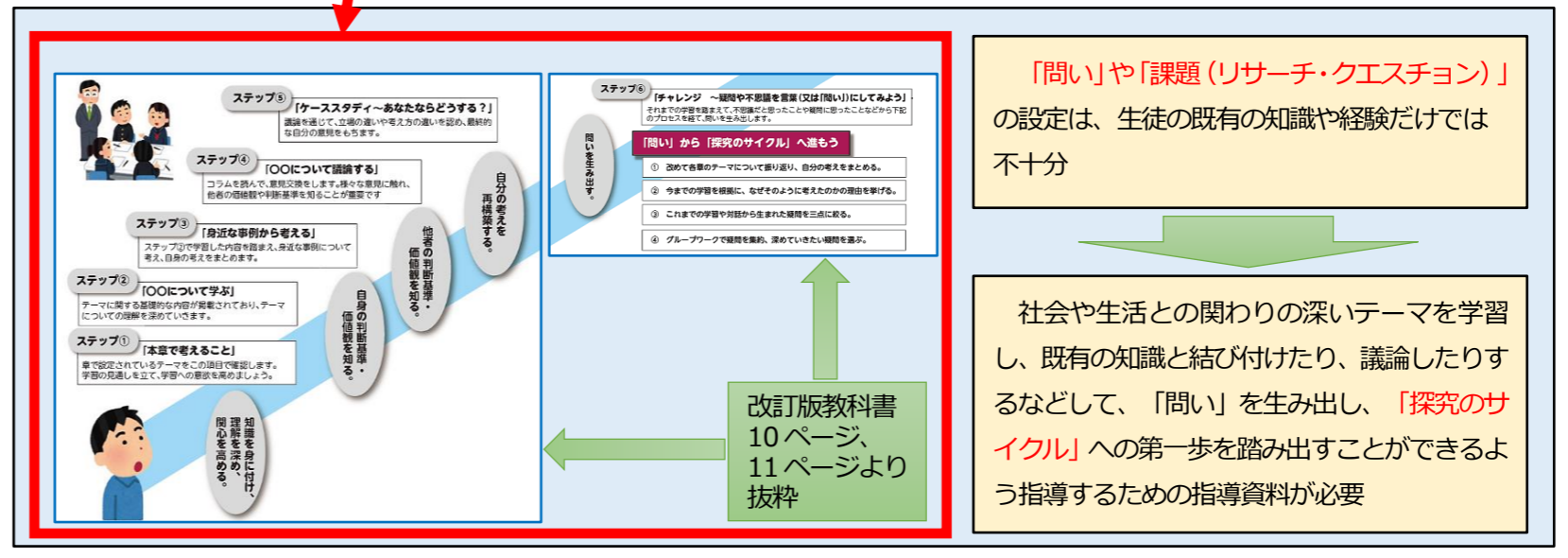
2 研究主題の設定

本委員会では、改訂された教科書を活用した指導の更なる充実を図るため、教科書の各章の学習を通して「課題（リサーチ・クエスチョン）」を設定させる方法や「指導と評価の一体化」に基づく学習評価の在り方等を掲載した教員向けの指導資料が必要であると考え、「『人間と社会』における探究的な学習の指導の在り方～改訂版指導資料の開発～」という研究主題を設定し、指導資料を開発

II 指導資料の開発に向けて

1 効果的な教科書活用方法について紹介するページの開発

教科書の全ての章は、共通した項目で構成
探究的な学習活動の指導を充実させるため、「問い」を生み出すステップ①からステップ⑥について、具体的な章を取り上げながら、学習の流れとポイントをまとめた教科書活用方法の紹介ページを開発



2 学習評価の在り方や評価文例について紹介するページの開発

東京都立高等学校教育課程編成基準・資料に基づく「人間と社会」の目標、各学校が作成した「スクールポリシー」、「グランドデザイン」等による教育目標や育てたい生徒像等を踏まえ、具体的な生徒の姿を見取るに相応しい3観点の評価規準を設け、文章記述による評価を行うために役立つページを作成

【作成に当たった留意事項】

- 「人間と社会」の評価については、「総合的な探究の時間」と同様に、文章記述による評価とする。評価の際、各学校の学習実態に即し、「様々な価値や考え方があるという多様性の理解」、「他者と協働する意義の理解」、「多面的、多角的考察」、「内面の成長や行動の変化」、「当事者としての意識」等に着目
- 評価のための資料は、ワークシートやレポート等の制作物、ポートフォリオ（OPPシート等）、授業の観察記録、体験活動の連携先の報告書、生徒の学習活動である「自己評価」等の多様な資料を活用するなどして、総合的に行うことが必要

「東京都立高等学校教育課程編成基準・資料」（令和元年11月）より



Ⅲ 開発した指導資料

1 効果的な教科書活用方法について紹介するページ

ステップ⑤「◆ケーススタディ～あなたならどうする？」
目的：人生の諸場面を想定し、選択・行動する力を育成する。

☆各章共通のポイント
グループワークを行い、あなたが選択したものが、なぜ最もよい選択となるのか、理由（メリット・デメリットについても）を説明したり、グループのメンバーの選択や、なぜそれを選択したのかなど、理由を聞いたりして、議論しましょう。

私はAを選びました。
なぜAにしたのですか？
私も同じ理由です。
〇〇も大切ですね。

ステップ⑥「◆チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみましょう～」
目的：テーマに関する学習や話し合いを通して生じた疑問を「問い」として残す。

生徒の疑問を「問い」にする方法を紹介
さらに「問い」を「課題（リサーチ・クエスチョン）」に洗練させる方法を紹介

アンケートを活用し、回答をリアルタイムで取り上げる事例を紹介

2 学習評価の在り方や評価文例について紹介するページ

評価の視点とポイント

生徒の到達段階 (ステージ)

到達段階	自己理解	他者理解 (他者の考えや価値観を認める)	自己変容 (自己の判断基準の再確認・再構築)	行動変容 (主体的行動・課題発見)
「知識及び技能」的側面	○自分の意見や行動・判断基準等を理解している。 ○必要な情報を調べる事ができる。	○他者の意見や行動・判断基準等を理解している。 ○集めた情報を的確に整理することができる。	○多様な意見等から、自分の考えや行動を振り返り、見つけ直している。 ○収集した情報を活用し、答えを導くことができる。	○自分と社会との関わりについて理解している。 ○収集した情報を活用するとともに、自分と社会との関わりを踏まえ、新しい課題を生み出すことができる。
「思考力・判断力・表現力等」的側面	○自分の意見や考えを表現するとともに、必要な情報が何を探ることができる。	○異なる考えや価値観への理解が深め、他者との相互に意見を交換することができる。	○多面的・多角的に考えて、問いに対する答えを導くことができる。	○自分と社会との関わりや、多面的・多角的な視点を踏まえて、問いに対する答えを導くとともに、自分事として捉え、新しい課題を設定することができる。
「学びに向かう力・人間性等」的側面	○自分の価値観や判断基準を知ろうとしている。	○多様な価値観や判断基準を受け入れようとしている。	○自分の価値観や判断基準を高めようとしている。	○社会の一員として主体的・協働的に行動しようとしたり、学び続けようとしたりしている。

- 「人間と社会」の学習を通して、生徒が到達した段階を示す図を作成
- 「自己理解」→「他者理解」→「自己変容」→「行動変容」の到達段階（ステージ）4段階を設定し、様々な資料を基に、生徒がどのステージに立っているかを見取ることができるように設定
- 「知識及び技能」的側面、「思考力・判断力・表現力等」的側面、「学びに向かう力、人間性等」的側面から、それぞれの観点に基づく学習評価の文例を作成
- 上記の到達段階（ステージ）に応じて、適宜、三つの観点から文例を選択し、各学校の実態に応じて、評価文を作成

【「行動変容」のステージに到達した生徒の評価文例】

自分と社会との関わりについて理解し、収集した情報を活用するとともに、多面的・多角的な視点を踏まえ、新しい課題を設定し、主体的・協働的に行動したり、学び続けようとしたりした。

Ⅳ 検証授業及び成果・課題

1 検証授業

- 単元 第19章「主権者・成年としての権利と責任」
- 教材 「人間と社会」改訂版教科書
- 指導計画（3時間扱い）
 - ① 内容の理解を深める学び（0.5時間）
判断基準を高める学び（0.5時間）
 - ② ケーススタディ～あなたならどうする？（1時間）
 - ③ チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみましょう～（1時間）
- 指導のポイント
 - 生徒がこれまでに経験したことや身近な問題、現代的な課題を取り上げるなどして生徒の興味・関心を喚起
 - 主権者・成年としての権利と責任について自分事として捉えるとともに、広い視野に立ち、多面的・多角的に考えるように指導

2 成果

次の「問い」は生徒が立てたもの

- 投票した人が得をするような取組はあるだろうか。
- 若者優先の政策をすれば投票する若者は増えるだろうか。

さらに、これらの「問い」を生徒同士の議論や指導書に基づいて洗練させ、下記のとおり改めて設定

- 18・19歳の投票率を上昇させるために、義務教育段階からできる取組とは何だろうか。

このことから、本委員会で開発した指導資料を活用した授業を展開することは、「問い」を「課題（リサーチ・クエスチョン）」に洗練させる上で有効

3 課題

検証授業だけでは、文章記述による評価文の作成は難しいが、今後、様々な学校における学習評価の観点や事例を収集するなど、各学校が適正に学習評価ができるように指導資料の内容をより一層充実させることが必要

委員名簿

東京都立小石川中等教育学校	統括校長	鳥屋尾 史郎
東京都立砂川高等学校	副校長	延藤 修一
東京都立江戸川高等学校	主任教諭	下西 美穂
東京都立六郷工科高等学校	主任教諭	山内 理央
東京都立赤羽北桜高等学校	主任教諭	木村 裕美
東京都立工芸高等学校	教諭	中村 里津也

担当 教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 南濱 隆宏